

<2019年度 ハローオリンピック事業>
オリンピック教室

実施報告書

東京都 北区立稲付中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

■期 日 : 2019年9月12日 (木)

■ク ラ ス : 2年1組 (30名) 、2年4組 (30名)

■オリンピアン : 野藤 優貴 先生 (スキー/スノーボード) 【出場オリンピック/バンクーバー大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・今日は、オリンピックについて知ってほしいと目的を話し、授業での3つの約束事として、1.全力で取り組む。2.仲間同士みんなで助けあって取り組む。
- 3.みんなで励まし合い、ちょっとしたことでも感謝し、「ありがとう」と言えるような仲間意識を持って取り組んでほしい、と伝えた。
- ・ストレッチ、じゃんけん勝ち抜けを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳び (90秒×2回) を実施。2班毎3チームで行い、制限時間内に跳べた回数を競う。引っかけても続きから数えることとした。
- 1回目の後作戦タイムを設け、少しでも多く跳ぶにはどうしたらよいかを話し合う。

4. まとめ



- ・結果を踏まえ、勝つことも大事だが、ルールを守ったり作戦を立て工夫ができていないこと、皆で話し合うということもすごく大事なことであったと伝えた。
- これらが「8の字跳び」の中にもあったかを考えながら、教室に戻ってほしいと話し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・スノーボードアルペン競技を通じて体験したオリンピックバリューについて話す授業の目的を確認。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて説明。「エクセレンス＝卓越、全力で取り組む」「フレンドシップ＝友情、仲間、助け合い」「リスペクト＝敬意/尊重、思いやり感謝」

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：運動の時間で感じたオリンピックバリューを書き出す。

発表：うまくできるように工夫する、提案が多く出た、一生懸命やって考えて実行したこと、全力で取り組んだ(エクセレンス)

反論もなくチームワークを活かして取組めた、記録が伸びた時仲間の繋がりを感じた、協力してできたことが楽しかった、励ます(フレンドシップ)

ドンマイの掛け声があった、オリンピック教室作成者について感謝、思いやりをもって縄を回した、ミスしても責めない、大きな声を出す(リスペクト)

4. まとめ



・野藤先生がオリンピックバリューの中で1番大切にしているのは、リスペクトだと話す。

・相手のことを気にかけてあげることが大事で、今までの関係性が更にうまくいくようになるため、オリンピックバリューの中でも特に尊重や感謝の意味を持つ「リスペクト」を大切にほしいと伝え、授業終了。

■期 日 : 2019年9月13日 (金)

■ク ラ ス : 2年2組 (31名)、2年3組 (29名)

■オリンピアン : 豊島 翔平 先生 (ラグビーフットボール) 【出場オリンピック/リオデジャネイロ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、今日の授業のテーマは「笑顔」と話し、みんなで楽しくラグビーを通じてオリンピックを知ってもらいたいと話す。
・ストレッチ、ボールリレーを実施

2. 準備体操



3. 主運動



・「辺にTRY」(5班でのリーグ戦)を実施。四角いコートの中がアタック、外がディフェンスとし、アタックは4辺のいずれかにTRYする。ディフェンスは「タッチ」し、TRYを阻止するとして、60秒の試合を行った。

4. まとめ



・「エクセレンス」=ベストを尽くせたか。「フレンドシップ」=仲間と助け合うことができたか、「リスペクト」=レフリーやルール・相手があつてのスポーツであり、相手に「ありがとう」と言えることが大切と振り返り、座学では、オリンピック選手になるまで様々な経験をしてきたことにも触れたいと話し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・スライドや映像を使用し、ラグビーフットボール競技について説明。近代オリンピックの父クーベルタンについて解説。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて説明。「エクセレンス＝卓越、ベストを尽くす」「フレンドシップ＝友情、仲間、チームワーク」「リスペクト＝敬意/尊重、フェアプレー、ルールを守る」

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：クラスの笑顔を更に増やすために必要なことをオリンピックバリューの言葉を使用して考えよう。
- 発表：1日1つ新しいことに挑戦する、諦めずに努力する、誰かに任せるのではなくクラスで協力する、クラスの目標を作る(エクセレンス)
 お互いを理解しあう努力をする、クラスメイトを笑わせる、クラスで協力する、毎日会話する、信頼しあう(フレンドシップ)
 小さなことでも感謝する、毎日挨拶をする、相手を褒めまくる、給食を作ってくれた人に感謝する、生きていることに感謝(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは皆の日常生活のさまざまな瞬間に見出すことができる。夢や目標があってもなくても、目の前のことに全力で取り組むことである。
- ・東京2020大会には世界各国から11,000人の選手が集まる。オリンピック選手を見つけた時に挨拶をすることも、オリンピックバリューの体現につながる。ラグビーのワールドカップにも興味を持ち、スポーツを通じて笑顔になってほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真



■ 集合写真



■ 記念品贈呈



■ 修了書贈呈

